

ステイックスバイオ
テック
(鹿児島市)

ウイルス検査普及へ

迅速で精度の高いウイルス検査の普及を図る。インフルエンザなら、唾液を採取後、20分以内で結果が分かる。今年3月認定を受けた鹿児島大学発ベンチャー。隅田泰生鹿児島大学院教授(60)が中心となり、ナノテクノロジーを使ったウイルス検査の研究開発や、その事業化のため設立した。隅田教授が社長を務め、主に鹿大内で研究している。

検査は、人の細胞表面にある糖鎖(鎖状の糖分子)にウイルスが吸着する性質を利用し、糖鎖を固定化した金属粒子でウイルスを捕捉し、磁石で集めてウイルスの遺伝子を検出する。現在の簡易検査の50万倍以上の高感度で、発症前のごく初期でも検出が可能という。技術は特許を取り、関連商品を研究機関や製薬会社販売している。

「検査法を診療所や介護施設に広め、インフルエンザやノロウイルスといった病気のまん延防止に役立ちたい」と、隅田社長は力を込める。革新的事業に挑戦する企業を表彰する九州二ユービジネス大賞に事業化案を今春応募し、審査員特別賞に選ばれた。介護施設などに検査法を覚えてもらい、入所者に感染の恐れがある場合に事前配布したキットで検査し、クリニックや薬局が連携して感染拡大を防ぐ仕組みを提案した。

検査キットの体外診断薬としての認可を目指し、申請に向けて取り組む。認可されれば、保険適用が可能になり普及に弾みがつく。鳥インフルエンザウイルスの現場検査など動物の疾患でも研究を進める。「研究成果は、社会で生かされてこそ意味がある」と隅田社長。世界中にあるウイルス性疾患を念頭に「海外でも事業展開していきたい」と話した。(小手川美子)

2006年、隅田泰生氏の研究拠点の一つがあった神戸市で設立。08年、鹿児島市城山町に移転。資本金2075万円。売上高約1000万円。従業員7人。メールアドレス=sales@sudxbiotech.jp



鹿児島大学内の実験室でウイルス濃縮作業をする研究員と隅田泰生社長(右)

＝鹿大工学部理工系総合研究棟